平成30年度　嬉野市教育委員会　教育基本目標評価シート

嬉野市民ワクワクデザイン2018（社会教育）

具体的活動		教育委員会における自己評価				
		評価	項目	項目ごと実績･成果･評価	課題･問題点	改善点
具体的施策	(1)図書館サービス推進	A	・ホームページや「図書館だより」等、情報発信の充実を図る。 ・保育園・幼稚園等への巡回、遠隔地への巡回、学校等への配本を通して読書の推進を図る。また学校機関との連携を図る。 ・読み聞かせボランティアの支援、市民参加による図書館運営を目指す。 ・「読書活動推進月間」の１０月を積極的に読書活動に取り組めるような環境づくりに努める。 ・絵本の読み聞かせやブックスタート事業を通し、他団体との連携を図り親子が触れ合うきっかけづくりを推進し読書習慣を培う。	・今年度開催のおはなし会等のイベントについては、図書館だより、ＨＰ内の図書館カレンダーの他に新たにイベント欄を設け情報を掲載。防災行政無線での広報及び庁内ＬＡＮで職員に対しての広報も再度行った。 ・遠隔地巡回については、巡回訪問時間等を見直し、効率的な巡回に努めた。 ・県からの読み聞かせボランティア研修等の開催案内を随時ボランティアグループへ広報し、研修機会の提供に努めた。またおはなし会等にボランティアグループからの積極的な参加をいただき、連携を深めた。 ・講談社絵本キャラバンの誘致（９／８）、第１回読書活動推進月間における催し物として講演会の開催（１０／１３）、また「大人のスタンプラリー」（１０月中）を行い、市民の読書に親しむ環境づくりに努めた。 ・ブックスタート事業では、赤ちゃん相談時に来ることができない保護者に対し、健康づくり課の保健師等と密に連絡を取り合い、支援員さんから家庭訪問時に直接手渡しをしてもらうことができた。	・１０月の読書活動推進月間イベントについて、今年度初めてということもあったが、内容・集客等について今後更に検討が必要と思われる。 ・祝日開館及び開館延長により時差出勤シフトで対応しているが、フル勤務できる正規職員が１名であとは勤務日数に制限のある再任用職員・非常勤職員のため、シフトにかなりの無理が生じている。図書館の役割を鑑み十分な読書啓発活動を行いたいが、このままでは事業の縮小も検討せざるを得ない。	・第三の場所としての図書館の重要性も更に増している。市民に広く読書に親しんでもらえる環境づくりの充実を図るためにも、必要な人員体制の確保に努める。
	(2)文化財の保存と活用	A	・地域との連携を深め、文化財指定候補の情報収集と調査に努める。 ・市指定無形民俗文化財の保存及び後継者育成の支援を行う。 ・埋蔵文化財の保護と開発との調整に努める。 ・特定物件の修理修景を行い伝統的建造物群保存地区の保全と活用に努める。 ・市民の文化意識の向上に資するため資料館収蔵資料の活用、展示入れ替え等を行い郷土学習の場を提供する。	・文化財保護審議会や郷土史研究会などを通じ、地域の歴史文化の調査や情報収集などを行なった。 ・民間および公共の開発行為に対し、約１００件(2018年11月1日現在)の周知の埋蔵文化財包蔵地の照会依頼を受け付け、依頼者に対し文化財保護法に則った指導を行なった。また、周知の埋蔵文化財包蔵地（大黒町遺跡）への開発行為（宅地造成）に対して確認調査を行ない、来年１月下旬ごろより本調査の支援を実施する予定。 ・今年度は１件の建造物（円田家主屋）修理と１件の工作物（生蓮寺石垣）修理を行なう。 ・今年度は歴史民俗資料館２階で企画展『地元(うち)の神様(かみさん)』(９月１日～１０月３１日)、１１月１５日～１月１４日には『没後３５０年特別企画　蓮池藩祖　鍋島直澄』を開催。	・新たな文化財について、調査を行う時間的余裕がなく、人的配置も課題である。 ・埋蔵文化財専門職員が担当部局に在籍していないことにより、確認調査や本調査などの実施が遅れ、開発業者の計画が停滞した。 ・町並み内でのイベントの実施等に関して関係課および関係団体等との間で齟齬が生じている。 ・資料活用のための人員配置ができず、昨年度に比べ企画展や出張展示などの回数が減少した。また、同様の事情から杵藤病棟に保管してある資料の把握・活用が未実施である。	・資料の整理作業や調査に携わる人材の確保と資料を適切に管理・保管できる収蔵施設の充実化を行なう。 ・埋蔵文化財専門職を設置し、開発主体（民間・公共含む）に対して文化財保護法に則った適切な指導を行えるようにし、開発と文化財の保存の両立を図る。 ・伝健制度導入時の状況を再確認し、関係課と関係団体と情報を共有する。 ・資料の保存と活用を両立できる人材（学芸員）の拡充、およびそれを支える職員の研修に努める。
	(3)文化の振興と環境づくり推進	B	・ワークショップや各種イベント等で地域に根差した活動を行い、身近に触れ体験することで市民の文化振興に対する理解を促し、子どもから大人まで市民の文化に対する高い意識の醸成を行う。また地域における各世代間の交流を基に、文化振興の継承を図る。 ・組織整備をすることにより文化振興基本計画に基づき文化振興を推し進めていく。	・社会文化会館を拠点として演劇や落語などを公演し、またマルシェや子どもたちの発表の場として会館を利用した。 ・小学生を対象に伝承芸能継承のために授業を開いたり、実演や体験活動も行った。また、地域の伝統を守る大人とそれを継承する子どもたちとの交流が図られた。	・文化振興計画に沿って継続的な活動が必要とされる。芸術の素晴らしさを伝える観賞は実現できているが、創作や実演まではまだ踏みきれていない。 ・伝統芸能の継承では一部の子どもたちへの体験はできたが、全市的に取り組まなければならない。	・様々な体験を基に創作意欲を発揮できる環境づくりが必要となる。各文化サークルの交流や発表の機会を増やすことが重要である。 ・予算の問題もあるが、各地域コミュニティに呼びかけ、多く地域で実施できるようにする。
	(4)次世代を担う青少年の育成	A	・地域及び関係機関との連携を強化しながら、様々な体験・学習が出来る場としての育成事業を展開し、青少年が豊かな人間性を育み、人生の目標を見出せるよう、青少年の健全育成の向上を図る。 ・地域全体が子どもたちとかかわりを持ち、地域で子どもたちを見守る環境の整備を推進する。 ・放課後や休日に子ども達が安全・安心して過ごせる居場所を設け、地域や異世代との交流の場を提供し、青少年が心の豊かさ、生きる力を養える環境の整備を推進する。	・青少年育成市民会議、子ども連絡協議会、嬉野市婦人会との連携によりさまざまな事業を実施したが、その体験により子どもたちの生き生きとした姿が見られた。 ・各地区の地域コミュニティと連携し、子どもたちが行うラジオ体操に地域住民が参加し、地域の大人と子どものかかわりが十分できた。 ・放課後子ども教室では特に囲碁教室を通じ、地域の高齢者の指導により異世代間の交流ができた。	・各事業に対する参加者がもう少し増えてもよかった。また単なる遊びの延長ではなく、人間形成につながるような事業であったか再度検証する必要がある。 ・大人の参加が少ない地区があり、地区によって温度差があった。 ・囲碁教室では一定の成果が見えたが、ほかの事業でも取り組む必要がある。	・各事業実施に当たっては、学校を通じた広報を十分に行い、保護者の理解が得られるように努める。 ・地域コミュニティを中心に老人会にも協力を求め、一人でも多くの参加があるように呼びかける。 ・他の放課後子ども教室との連携、話し合いにより事業を多様化する。
	(5)生涯学習のまちづくり推進	B	・生涯学習による生きがいや健康づくり、地域づくりに寄与するため学習の機会や場所としての講座・教室の充実を図り、生涯学習への参加のきっかけづくりや継続的な学習活動を推進する。 ・新たなサークルの内容を提供し、多くの市民が参加できるような機会を設ける。 ・自主的なサークル活動や地域活動を促進するため、出前講座の内容や講師陣の充実に務め、より幅広い市民の学習活動の支援を推進する。	・高齢者教室において、一般教養講座及び趣味講座を実施し、高齢者の居場所作り、生涯学習へのきっかけ作りとなった。 ・高齢者による趣味講座を実施しているが、各教室をサークル化し参加者が自由にできるような教室へ変えていくよう各参加者に説明した。しかし反応はさまざまであった。 ・各地区の区長を通じて出前講座の案内をし積極的な活用が見られた。	・参加者が固定化し、新規の参加者が少ない。また講座も数年間同じもであり、マンネリ化という印象も与えている。 ・趣味講座参加者が固定化し、行政に頼りきりの参加者が多い。 ・出前講座の申し込み団体が固定化している傾向である。	・各講座参加者の意識を変えるために、本当にやりたい講座の提供や、サークル化を目指し自主運営ができるように変えていく。そのためには講座参加者の若返りや参加者を増やすこと、また新たな講座の提供も考えなければならない。 ・市民全体を通じて出前講座の広報を実施し、この活動を広く市民に伝える。
	(6)スポーツのまちづくり推進	A	・スポーツ推進委員や嬉野市体育協会、総合型うれしのほほんスポーツクラブと相互協力を行い、各種大会や体力測定、クラブ活動を通じ、市民の体力向上と子どもから大人までスポーツに親しむことが出来る生涯スポーツの普及を図る。 ・子どもたちへのスポーツに対する関心を持つような事業を展開し、また日頃運動不足の中高年者に向けた健康づくり教室などを関係各課と連携し事業を推進する。 ・スポーツイベントの内容を充実させ、スポーツをするだけではなく、見ても楽しめるような機会を作ることでスポーツの関心を高める。また、スポーツツーリズムにも注力し、観光関係機関と連携し嬉野市の魅力を発信することも踏まえ、市全体の知名度アップや地域活性化に努める。 ・嬉野総合運動公園やリバティ、新総合体育館などハード面を充実させ、市民が気軽にそして快適に運動を楽しめる環境づくりに努める。	・市民向けの体育イベントや体力測定などを行い、子どもから大人までスポーツに親しむことができる生涯スポーツの普及に取り組むことができた。 ・スポーツメーカーとの連携協力により、運動不足の年代を中心としたウォーキングイベントを開催した。 ・観光部署とも連携し、観光アイテムでもある忍者をテーマとしたスポーツイベントを実施する。 ・新体育館が来年４月に運用を開始する予定。	・成人については市全体の方を対象としているが、人集めに工夫が必要である。子ども向けの取り組みについては、学校の協力が不可欠で財政的を含め、全校による取組みができていない。 ・ウォーキングイベント参加者に日頃の健康面に関してのケアの取り組み方を合わせて行う必要がある。 ・ターゲットを子どもとすることにしているが、参加者の確保が課題である。 ・運用開始に向けて備品等の整備が早急に必要である。	・各団体、学校とも連携をとり、魅力あるニュースポーツに取組み、広報も定期的に行うようにする。 ・健康づくり課や福祉課とも連携し、参加者のイベント後の一定期間における健康状態の把握等に取り組む。 ・観光課部署とも連携し、全市民や市内保育園や小学校への広報を実施する。 ・財政面もあるが複数年かけて整備する。

評価委員からの指摘事項･意見	評価結果（　段階）
･まず全体的に、昨年の評価委員会における指摘によく対応し、事業評価の焦点化が進められていた。評価の方法･内容に進歩が見られている点を、高く評価したい。 ①（1)の図書館サービス事業については、小規模な中で様々な工夫や頑張りが行われている様子が確認できた。子育て支援施策との連携についても、高く評価できる。 ②（2)の文化財保護については、大人の学びや子どもの学びとの接合が図られるような事業が展開されるよう、検討を期待したい。 ③（4)の次世代育成に関連して、嬉野地区･塩田地区の子どもたちが(各地域についての学びに特化しすぎず)「嬉野市」についての学びを深められるよう、例えば塩田地区の子どもたちに嬉野茶について学ぶ機会を提供し、嬉野地区の子どもたちに伝建地区や文化財について学ぶ機会を提供するなどの企画を期待したい。 ④（3)から(6)までの各項目については、それぞれの事業について意欲的な取り組みが見られたので、これがより広く周知され、市民の関わりが深まるよう、広報のさらなる工夫を期待したい。 ⑤　さまざまな事業について、マンパワーの不足が指摘されていた。今後の人口減少等を想定に入れると、市による直接事業については精選を図る一方で、社会教育全般における「新たな担い手」として、市民の力の活用についての検討を期待したい。関連して、各種事業における運営ボランティア等の募集においては、事業に特化した募集活動を検討すべきとの意見があった。 ⑥（3)から(5)のサークル活動については、より幅広い時間帯での活動保証を通じた、活動の活性化を検討しても良いのでは、との意見があった。ただし、市による直接提供では無理が生じるので、上記のような幅広いサービス提供者の検討が必要である。	A

指摘を受けての改善点
①　他団体や他課との連携を更に強化し、市民への一層の推進･定着を目指す。また今後の運営については、引き続き人員の確保を図りながらも、事業の精選を行い、効率的な運営に努める。 ②　文化財保護の視点から、大人と子どもの学びの接点にかかわる事業については、次年度の研究課題とする。 ③　次世代育成については、子どもたちに今年度取り組んだ地域の伝統芸能紹介を全市的に広げ、その後嬉野地区及び塩田地区の伝統を紹介する企画を立案する。 ④（3)から(6)の事業については、各イベントに今後も取り組んでいくが、地域コミュニティに働きかけ、一緒にできる事業も展開していきたい。また子ども行事については、中学生、高校生のジュニアリーダーの育成に力を入れ、子どもたちを中心としたイベントにも取り組んでみたい。子ども会、青少年育成市民会議の行事には、子どもたちの参加を呼びかけると共に、日程の調整や学校側への働きかけを密に行いたい。 ⑤　今後事業を展開していく中で、指導者の選定を図りながら、文化連盟や地域コミュニティに声をかけ、新たな担い手、指導者を発掘し、人材を確保していきたい。 ⑥（3)から(5)の高齢者教室に関しては、サークル化への移行に今後も取り組み、高齢者だけのサークルではなく、中高年の世代も取り入れるため、時間帯なども工夫し、若い世代の参加者も取り入れたい。その後サークルが自主運営できるような組織づくりを目指したい。

評価4段階		
	A	達成(80%以上)
	B	ほぼ達成(51～79%)
	C	やや不十分(50～21%)
	D	不十分(20%以下)